

☆第14回大井谷棚田祭（秋晴れの10月9日（日曜日）開催）レポート☆



谷一面に広がる石垣の波の上を、金木犀の芳しい香りが流れる秋の大井谷で、「第14回大井谷棚田祭」が開催されました。

大井谷棚田祭は、まず、「助はんどうの会」の三浦隆文会長と師井志延副町長のあいさつで始まりまして。

あいさつの後、三浦隆文会長に棚田の状況を伺いました。「石垣を守ることは、年々難しくなりつつあるんよ。大井谷の棚田だけで生計を立てることはできんから、若者が外に出ていく。帰ってきてほしくても仕事が少ないしね。それから、石垣が崩れても近頃は石工が少ないので、地元の器用な人に積んでもらうしかない。」と棚田の将来を少し心配そうに語られる会長。「でも、近頃は冬以外、カメラマンが結構な人数やってきて、棚田の風景を撮るんよ。春はもう3月頃からね。今日の棚田祭もたくさんカメラマンが来とるよ。」と今度は、美しい棚田を守っている自負がひしひしと伝わるコメント。背筋がぴんと伸び、矍鑠とした口調で話される会長には、これからもがんばっていただきたいです。



参加者には、豚汁がふるまわれました。ちょっと肌寒い初秋の朝には、たまらない御馳走です。これだけ多くの参加者のために、地元の方々がどれほど走りまわられたのか。棚田を守り続ける地元の方々の暖かな心配りが、豚汁の器から伝わってくるようでした。



午前中は、「棚田スローウォーク」が行われました。スローウォークには、大井谷の各所をめぐりながら、一文字だけひらがなの書いてある看板を探し、書いてある字を並び替えて一つの言葉を作る、オリエンテーリングのようなクイズも添えられていました。散策に参加された皆さんは、大井谷の石垣の美しさを楽しみつつ、看板探しを楽しんでいました。

お昼前から、白谷神楽社中による神楽が上演されました。おめでたい「恵比寿」は、腰籠の中のキャンディーを撒き餌のように観客席に向かって撒くので、子供たちに大人気です。また、石見神楽の代名詞ともいえる「大蛇」では、大蛇が舞台狭しと暴れ、泣き出す子供もいました。須佐之男命が見事に大蛇を退治すると、舞台前に集まった多くの観客から拍手が送られました。



その後、野菜の重量当てクイズやスローウォーククイズの抽選会がありました。当選した方の住所に耳を傾けると、地元吉賀町のみならず、遠く広島・山口・浜田等の地名も聞かれました。この大井谷が、遠方の方々にも愛されている証拠だなと感じました。

「恒例の「大井谷棚田米すくい取り」を始めます。」のアナウンスの音が終わるとすぐに、すくい取り会場前に大勢の大井谷棚田米ファンが集まりました。両手いっぱい棚田米をすくい取った参加者は、透き通るような白さのお米をビニール袋に入れてもらい、とても嬉しそうでした。肘まで使ってごっそりすくう人もいて、主催者は「用意したお米が足りるのかな」とハラハラの状態でした。（大井谷棚田米は柿木の道の駅で購入可能です。）

棚田祭の結びは、地元助はんどうの会の副会長三浦 貞さんのあいさつです。「これからも、棚田を守るために頑張っていきます」との力強い言葉で、棚田祭りは大団円を迎えたのでした。



棚田祭の結びは、地元助はんどうの会の副会長三浦 貞さんのあいさつです。「これからも、棚田を守るために頑張っていきます」との力強い言葉で、棚田祭りは大団円を迎えたのでした。